

「みんなを笑顔にする “いちご栽培”」

井上 洋平 (44 歳)、衣美 (44 歳) Uターン
(今治市)



1 就農の動機・理由

いちご園を経営していた両親が高齢のため廃業する話が上がった時、就農について考え始めた。両親を見ていて、いちご栽培が大変なことはよくわかっており、両親からも、周りからも反対されたが、「みんなを笑顔にするいちご栽培」を絶やしたくないという思いから、就農を決意し、家族でUターンした。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	樹園地 23a	樹園地 23a 畑 8a	樹園地 23a 畑 8a
経営内容	清見 15a レモン 8a	清見 15a レモン 8a いちご 8a	清見 15a レモン 8a いちご 8a

○農業用施設

いちごハウス 1棟

○主要農業機械

草刈機 1台

チェンソー 1台

軽トラック 1台

圃場環境モニタリングシステム 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県今治市

職歴 工作機械メーカーで機械設計

就農年月 令和2年4月

(2) 就農時の思い

両親が高齢となり、いちご園を廃業する話が持ち上がった時、小さな農園に来てくれるお客様がいること、みんな笑顔で帰ってくれること、父のいちごが絶品なことなどを改めて知り、私はいちごの味を守り、笑顔が生まれる場所を無くしてはならないと感じた。会社員として働いた方が安定しているということは百も承知だったが、家族で話し合い、生まれ育った大三島にUターンし挑戦することに決めた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

長年いちご栽培をしてきた父から農作業の手ほどきを受け、いちごの管理作業から出荷まで一貫して学んだ。

(2) 資金の準備

自己資金に加え、農業次世代人材投資事業(経営開始資金)を利用。また新しいハウスについては補助事業や公庫資金を活用した。

6次産業化は、愛媛6次産業化サポートセンターの支援を受けた。

(3) 農地・住宅の確保

親の経営を一部継承した。

(4) その他苦勞したこと

就農時は、倉庫は整理されておらず、同じ道具が何個も出てきたり、ハウスの中も清潔ではなかった。またムダな作業やムリな姿勢での作業などが多くあった。

5 農業経営の特徴

「K A I Z E N」(改善)と「5 S」(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に取り組んでいる。

→5 Sに取り組む

(得意な妻に担当してもらう)

→K A I Z E N

(自ら問題点に気づき、改善を繰り返していく)

思いつく限りの改善点をリスト化し、作業の合間を見て改善している。

6 これからの夢

○お客様をワクワクさせるような観光農園を目指す。

○地元シニアの方、農業に興味を持つIターンの方、観光で訪れる若者たちに職場と交流の場を提供し、田舎と都市の懸け橋になるような農園を目指す。

○6次産業化へのチャレンジ

いちご農家だからこそ出来る、いちごをふんだんに使った商品づくりをする。

○キッチンカーでマルシェやイベント販売

小さなころからお店を持つのが夢だったので、井上苺園のいちごを使った商品を、企画、製造から販売まで個人事業で展開する。

7 成功したキーポイント

就農にあたって①経営理念、②経営計画、③マーケティングをしっかりと持っ

て取り組んだこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業を新たにチャレンジする人へ。

あと一步を後押しする手厚い制度資金がありますので、県や市に聞いてみて下さい。

また、就農=経営者(社長)です。何をどれくらいの面積で作るのか?どれだけ働いて、どれだけ稼ぐのか?自由に決めることができます。そのためには、しっかりとした作戦(計画)が重要です。

○ 指導機関からのひとこと

井上さんご夫婦は、親の継承だけではなく、新たに6次産業化へのチャレンジやキッチンカーでマルシェやイベント販売など積極的に新たなことに取り組んでいます。

将来の地域リーダーとしての活躍が期待されます。

執筆機関

東予地方局農林水産振興部今治支局地域農業育成室

しまなみ農業指導班

電話番号 0897-72-2325



みんなを笑顔にする“いちご栽培”